

■米国：エネルギー情報局、エネ関連 CO<sub>2</sub> 排出量は過去最大の減少を見込む

2020年5月12日付の米国エネルギー情報局（EIA）が発表した「短期エネルギー見通し」（STEO：Short-Term Energy Outlook）によれば、米国における2020年のエネルギー関連のCO<sub>2</sub>排出量は前年比で11%減と過去最大の減少を見込んでいる。排出量は2007年をピークに減少傾向にあり、2020年の見通しはピーク時の76%に相当する。燃料別では、石炭からのCO<sub>2</sub>排出量がピーク時の半分以下となる。石炭は発電部門で天然ガスや再エネにシェアを奪われ続けており、新型コロナによる電力需要の減少がその消費量をさらに押し下げた形である。なお、2021年のエネルギー関連CO<sub>2</sub>排出量は、景気の回復を前提に5%増加すると予測している。